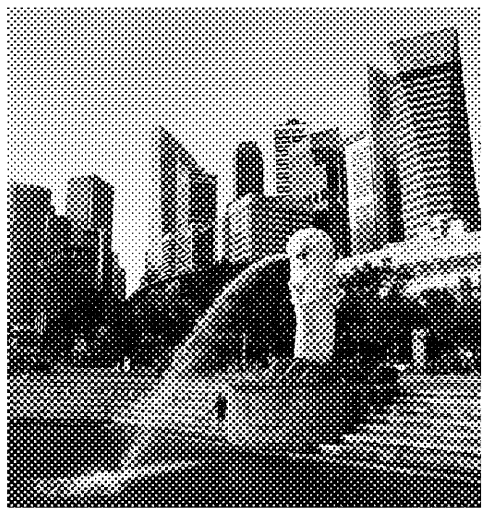
シンガポールにＩＴ人材

ＩＳＦ、日本・韓国から派遣

７月めどに現法設立

アイエスエフネット（ＩＳＦ ＮＥＴ、東京都港区、渡辺幸義社長）は、ＩＴ技術者の採用や育成を支援するヒューマン・リソース（ＨＲ＝人的資源）事業でシンガポールに進出する。７月をめどに現地法人を設立予定。注力するクラウド、ネットワーク、セキュリティーの３分野で高いスキルを備え、海外経験を望む社員を駐在型で現地企業に送り込む。数人から始めて中期的には１００人程度に拡大し、グローバル展開を加速する。



シンガポールに中長期的に１００人程度送り込む（同国中心部＝ブルームバーグ）

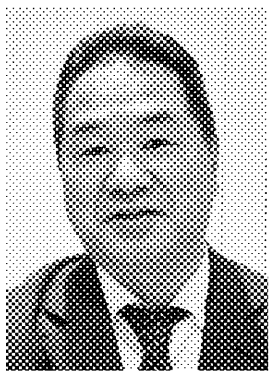
シンガポール進出のプロジェクトを７人体制で立ち上げ、現在、先発部隊が現地での顧客開拓や法人の設立準備に取り組んでいる。

ＨＲ事業の海外展開では韓国で実績を持ち、人材確保から業務の請け負いまでを１００％現地化し、社員数は１２０―１３０人に上る。新設するシンガポール拠点は、この韓国拠点とも連携。人材の調達先を日本と韓国の両建てとする。

シンガポールでは日本と韓国の技術者へのニーズがあっても、両国とも商慣習などの文化の壁が高く、採用が難しい。この点に着目し、日韓双方から高度なスキルを備えたＩＴ技術者を招聘（しょうへい）し、ＨＲ事業を行うことで差別化を図る。「シンガポールで日韓双方のＩＴ人材を採用し、紹介できるのは当社だけ」（渡辺社長）としている。

アイエスエフネットの社員数は約２４００人。主戦場は国内だが「将来的には海外売上高を約３割にしたい」（同）という。

上位層の給与引き上げ



アイエスエフネット社長 渡辺 幸義氏

渡辺社長に海外展開の狙いを聞いた。（編集委員・斉藤実）

◇

―シンガポールに進出する背景は。

「10年かけて会社全体の（従業員の）給与を2倍にしたいが、現状のままでは難しい。そこでスキルの高い上位層を引き上げ、それを目標に全体を底上げする。年収800万円超の上位層ならシンガポールでは単価は倍になる。優秀な人材はビザ取得も問題ない」

―国をまたがるHR事業の展望と課題は。

「日本からの人材流出にならないようにしたい。海外経験を積んだ人たちが、それぞれの人生の節目などで日本に戻り、故郷で働けるようにしたい。国内でも出身地を離れて東京などの都市圏で働く人は多いが、年齢を経るとUターン志向が強くなる。海外勤務も同様で、そうした要望に応えたい」

―具体策は。

「スキルが上がると時間や場所などの働き方の自由度が上がる。当社は2024年から兼業・副業を認め、25年には働き方を完全自由化する。希望する年齢になった後に地元に戻って働きながらリモートワークで高いスキルの仕事を受け持ってもらうことも可能だ。海外を経験した人が帰国後に地元に戻れば、地域の発展にも貢献できる。〝三方良し〟を目指したい」

―ビジネスモデルが変わるのでしょうか。

「今はシステム構築（SI）業者から仕事を請け負うことが多いが、海外展開とともにユーザー企業向けビジネスにも取り組む」

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社